

公益社団法人日本地球惑星科学連合
第12回学協会長会議議事録

開催日時 : 平成27年5月27日(水)午後1時00分から2時00分

開催場所 : 幕張メッセ国際会議場 302号室

〒261-0023 千葉市美浜区中瀬 2-1

出席者 :

[学協会] 倉本圭(日本惑星科学会・議長), 小林憲正(日本宇宙生物科学会、生命の起原および進化学会), 大塚康範(日本応用地質学会), 井上源喜(日本温泉科学会), 日比谷紀之(日本海洋学会), 井口正人(日本火山学会), 松岡篤(形の科学会), 新野宏(日本気象学会), 小山内康人(日本鉱物科学会), 北村晃寿(日本古生物学会), 小島紀徳(日本沙漠学会), 若林真由美(日本情報地質学会), 鈴木啓助(日本水文科学会), 高橋修平(日本雪氷学会), 日置幸介(日本測地学会), 成瀬元(日本堆積学会), 小野昭(日本第四紀学会), 牧野泰彦(日本地学教育学会), 谷口真人(日本地下水学会), 川幡穂高(日本地球化学会), 多田隆治(地球環境史学会), 山崎俊嗣(地球電磁気・地球惑星圏学会), 武田一郎(日本地形学連合), 井龍康文(日本地質学会), 森田喬(日本地図学会), 矢野雄策(日本地熱学会), 奥村晃史(地理科学学会), 西脇保幸(日本地理教育学会), 小玉喜三郎(東京地学協会), 江口定夫(土壌物理学学会), 篠原也寸志(日本粘土学会), 石郷岡康史(日本農業気象学会), 齋藤秀樹(物理探査学会), 楊宗興(日本陸水学会), 久世宏明(日本リモートセンシング学会),

[日本学術会議] 大久保修平, 藤井良一, 氷見山幸夫

[連合] 津田敏隆, 木村学, 川幡穂高, 中村正人,

議事内容 :

議事に先立ち, 出席者の自己紹介を行った。

1. 前回議事録確認

前回会議議事録を確認した。

2. 日本地球惑星科学連合活動報告

1) 2015年大会概要(津田会長)

2015年連合大会の開催状況について津田会長より報告があった。セッション数、投稿数について、開催直前段階での数字が報告された。期間中に開催される各種イベントについても紹介があり、本年度のフェロー授賞式、第1回地球惑星科学振興西田賞授賞式の紹介、また前日に開催された国際シンポジウム Geoscience Ahead の紹介があった。

2) PEPS 出版状況の報告

連合ジャーナル PEPS の出版状況について、川幡副会長より報告があった。現段階で 40 以上の論文が受理され、順調に投稿・出版されていること、またレビュー論文の比率が 30%に上っていることが報告された。

[質疑応答]

連合の活動について、倉本議長より質問があった。

・2017 年の連合大会は AGU とのジョイントミーティングになるということだが、国際セッションのみになるということでしょうか。

津田会長：全部のセッションがジョイントセッションとなるわけではなく、通常（日本語）セッションも開催します。

・2018 年以降の連合大会はジョイントとなるのでしょうか。

津田会長：2018 年以降については今後検討します。

3. 法人運営基本規程第 3 条（団体会員の入会基準）の変更について

この後開催される定時社員総会において、法人運営基本規程第 3 条の変更を諮る旨津田会長より報告があった。連合の団体会員である学協会の入会基準として、「地球惑星科学に関わる活動実績を有する『日本学術会議協力学術研究団体』に登録された学術研究団体、又はこれに準ずる学術研究団体で、この法人の目的及び事業に賛同し、入会を希望する団体。」とすることを総会で審議する。ただしこれは現会員には適用しない。

4. 日本学術会議の近況報告（日本学術会議地球惑星科学委員会 大久保委員長）

1) 第 23 期学術会議の活動について

2015 年 4 月 9 日から 11 日に、169 回総会を開催した旨の報告があった。（1）学術会議より、科学研究における健全性の向上のため、各学会誌について、authorship についての規定と二重投稿についての規定を整備し公開することを各学会等に求めていることが説明された。また、（2）第 5 期総合科学技術計画のあり方に対する提言、（3）学術会議の在り方、（4）大型研究計画検討分科会についての議論があったことが紹介された。（4）について、地球・惑星圏分科会藤井良一委員長より 2017 年のマスタープランの策定に向けて前回の提案に対するフォローアップを開始していることが紹介され、協力が求めていることが説明された。

2) 第 23 期地球惑星科学委員会の活動について

分科会、小委員会の説明があり、大型研究計画の深化、第 22 期地球惑星科学委員会の提言のフォローアップ、地球惑星科学における教育・人材育成についての課題に取り組むことが報告された。

5. 次期学協会長議長の選任

5 月 18 日より学協会に次期議長の自薦・推薦を募集していた。倉本議長より、海洋学会日比谷紀之会長が推薦された。推薦は 1 件であったため、その場で可否を問うこととした。満場一致で承認された。

6. その他

・日本リモートセンシング学会久世宏明会長より、現在内閣府で宇宙法の制定について検討が進んでいるため、各学協会にもパブリックコメント等で適時協力して欲しい旨の報告があり、また科学技術白書 2013 年でも指摘があるように、日本の科学論文のシェアが低下していることについて、学会サイドからも何らかの対応が必要ではないかという問題提起があった。

以上